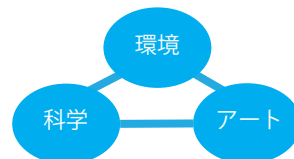


「サンゴの生命の樹プロジェクト クジラの苗床」の提案

2025 年 6 月 九州大学芸術工学研究院 知足美加子

【背景】 近年全国的にサンゴ減少、およびサンゴ礫底を含む群落全体の砂地化が問題となっている。静岡県沼津市の内海湾では造礁性サンゴのエダミドリイシの大群集が 1990 年代には約 5,000 m²存在していた。しかし、1996 年に起こった低水温やガンガゼによる食害、海藻類の付着により、現在総面積は 2.3%ほどに縮小している (1)。また、2023 年の夏には、サンゴの白化現象が起こっている。「北限域 (内浦湾) の造礁サンゴ群落保全会」では、砂礫地上に育成する生態を損なわず、周辺環境を極力変化させない構造の移植基盤の開発、種苗生産を進めている。



【目的】 サンゴを育成する苗床づくりにアートを取り入れ、将来世代の自然環境保全への意識を喚起し、能動的な行動に結びつける。海底の生命の循環に着目した鯨骨生物群集絵本『クジラがしんだら』（江口絵里著、童心社 2024 年）をモチーフに、クジラをかたどったサンゴの苗床をつくる。静岡にいたとされるザトウクジラが海底にお腹を下にして沈んだと仮定し、背中が穴の部分を上に向けてブロックを配置する。「造礁サンゴの塗壁」とスタッフ（サイザル麻）で作った漆喰の型に穴をあけ、折れたサンゴを差しこむ。これをクジラの背中側のブロックの穴に配置していく。潮をふく箇所には静岡産のミカンの木を差し込む。

海面下に美しいサンゴのクジラが眠ることを市民にイメージさせ、海と人の心を繋がりをもたせたい。サンゴに関する生物のネイチャーポジティブを目指す。



造礁サンゴの漆喰の型で折れたサンゴを育成



コンクリートブロック、ステップブロックとロープで成形



「クジラのサンゴの苗床」イメージ図

(1) http://www.sogyoren.jp/net.ne.jp/suisantamen/pdf/suisantamenR4_009.pdf (2024 年 6 月 20 日アクセス)

「サンゴの生命の樹プロジェクトクジラの苗床」

2025 年 6 月 九州大学芸術工学研究院 知足美加子

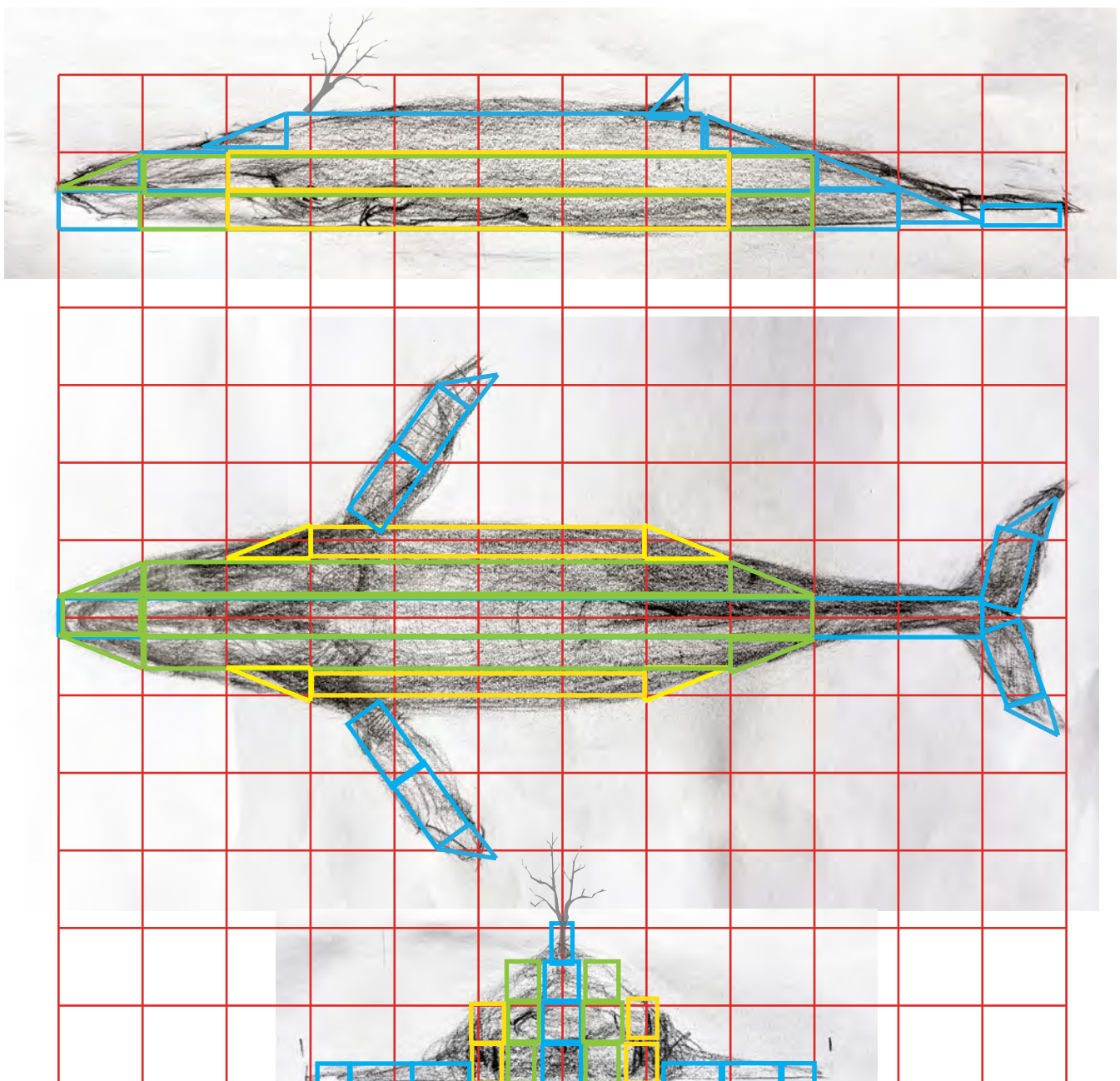
＊絵本をモチーフにしたクジラのサンゴの苗床づくり

・静岡にいたとされるザトウクジラが海底にお腹を下にして沈んだと仮定します。

・クジラ部分の素材は、コンクリートブロックの積層。背中部分は穴の部分を上に向けてブロックを配置。

・ヒレの間から潮をふくので、ここにミカンの木を差し込みます。

・プラコップに造礁サンゴ漆喰とスタッフ（サイザル麻）を流し込み、かたまったら漆喰を型からはずし、ドリルで穴をあける。そこに折れたサンゴを差し込むようにする。クジラの背中が、サンゴの森に。



□ ブロック 39×19×12cm→48 個 ▽ ステップブロック 45×26×25cm→17 個 ▽ ステップブロック 28×17×25cm→6 個